| 五行歌の会 | きんきサロン通信４月号 | 発行:きんきサロン　代表・いぶやん<br>編集長・小倉はじめ<br>No.023　2024.04.14 |
|---|---|---|

**京も春らんまん！**

年年歳歳花相似
歳歳年年人不同

今年の京都は桜の開花が例年より一週間ほど遅れ、逆にそのため、４月７日の歌会の日がほぼ満開というタイミングに恵まれました。桜の名所インクライン(蹴上)と、歌会会場のウイングス京都の歌会当日の画像をトップに貼りましたので、雰囲気をお楽しみ下さい。

きんきサロン歌会が発足してから約二十八年が経ちました。京滋の花の姿は変わりませんが、メンバーは様変わりし、冒頭の漢詩ではありませんが、感慨深いものがございます。『みやこ鳥１９号』でも追悼記事を掲載させていただきましたが、この間に鬼籍に入られた方々は十指をはるかに上回ります。でも新たなメンバーが次々ご参加下さり、また復帰してくださった方々もいらして、きんきサロンを下支えして下さっております。

「今が一番活気あるなあ」と言われる歌会に、皆で盛り上げていきたいと思っておりますので、新年度も何卒よろしくお願いいたします。今回ダントツの１席は、天上の父上からの「花便り」で参加者の心を掴んだ HIKARIKO さん。２席は先月に続き好調を維持する黒田節子さん。同点３席の２首は共に料理をモチーフにした歌で、平村幸子さんといぶやんでした。６月には富久屋さんでの昼食会、７月には琵琶湖畔での「七夕歌会」を企画いたしております。お楽しみに。

（いぶ記）

【305 回きんきサロン歌会結果】

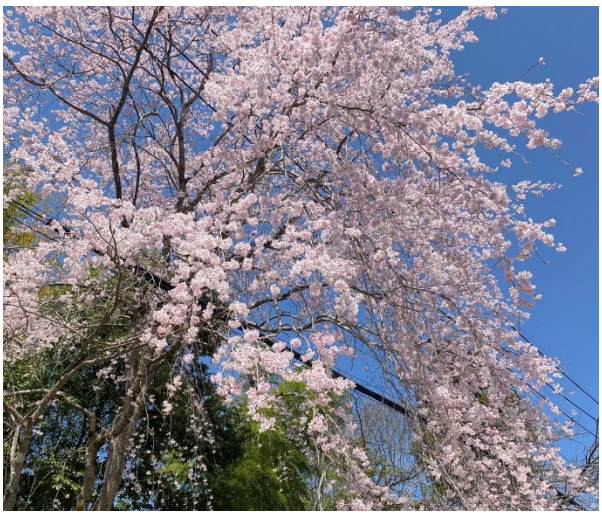
１
目が覚めた
生きてる
生かされてる
そうや 今日は
あれ食べにいこう
　　小倉はじめ ＊

２
ざくっと剥がし
ざっくりち切る
春キャベツ
さくっと
歯ごたえ
　　黒田節子 10 点 二席

3
ミモザの
モコモコを
見ていると
ゆで卵を
作りたくなるんだ
　　平村幸子 9点 同三席

4
料理自慢の女将
次から次ぎとおばんざい
オデンが一番美味しいと
言ったら
ご機嫌ななめ
　　いぶやん 9点 同三席
5
父が植えた
源平咲の梅
老いても
老いても
故人からの花便り
　　HIKARIKO 一席 15 点
6
思わず
デコピン
テレビに映る
脳天気な
先生方へ
　　二宮信子 6点
7
迷彩柄の
服は
着ない
血の匂いが
するから
　　青藍 7点
8
大変な病気を
抱えていても
心を蝕むことの
なかった
十六才 勇くん
　倭 5点
9
春のパワーで
「気」の力を
充電満タンにし
散ってゆく桜
目に焼き付けておく
　　西村康則 ＊

10
桜の切り株に
蘖(ひこばえ)が輝いている
思わず
天を仰ぎ
深呼吸をする
　　玉虫 8点 次点

■「＊」印は 4 点以下。点数非開示。
■（参加者 10 名）
いぶやん・小倉はじめ・黒田節子・倭
青藍・玉虫・西村康則・二宮信子
HIKARIKO・平村幸子
■5 月例会：5 月 5 日 ㈰
会場・ウイングス京都２Ｆ第二会議室
・午後 1 時開場、1 時半～5 時、歌会。

■京の桜　もうちょっとだけ！
　歌会前に西村さんが奥さんと一緒に、白川沿いの哲学の道を散策してきたとかで、写真いただきました。上段の写真、下段の写真は、伊吹代表が 4/1 日に学生時代の仲間と大文字山に登ったとかで、下山時に立ち寄った山科の「毘沙門堂」の枝垂れ桜です。貴重な写真なので紹介させていただきました。　　（はじめ記）